

## 春、ランドセルへの想い

校長 上橋 秀司

春の暖かい日ざしが注ぐ、素晴らしい季節を迎えました。息をのむような、見事な美しさを競いあう妙法寺川沿いの桜が、わかみやっ子の入学・進級をお祝いしているかのようです。若宮小学校は、本日、大きな可能性と夢をいただいた40名の新1年生を迎え、全児童268名で平成23年度のスタートを切りました。一人一人の子どもたちは、新しい友だち、新しい先生、新しい教室、新しい出会いの中でこれからに希望をふくらませています。「どんな勉強をするのかな。難しくないかな?」と、手渡されたまっさらの教科書に見入ったことでしょうか。本年度も、「生き生きと前進する子ども」を教育目標とし、「やさしい子」「たくましい子」「考える子」の育成に全力で取り組んでいきます。

先月の卒業式、大きく成長した6年生が、6年間のかけがえのない思い出がいっぱい詰まったランドセルを背負って、若宮小学校を巣立っていきました。大きな体に小さく見えるランドセル。そして、卒業の喜びを分かち合う笑顔あふれる卒業生の姿が未だに心に残っています。

ランドセルは、小学生の魂です。今回の東日本大震災で被災された子どもたちに、全国各地からランドセルが送られました。ランドセルを抱えながら、「これで学校へ行ける。」と嬉しそうに笑顔を見せる子どもたちを見るにつけ、一日も早い学校再開を願わずにはいられません。私たち一人一人が、できることを考え、共に頑張っていきたいと思えます。

4月、一年のスタートに当たって、想いが巡ります。子どもたちにしっかりと力をつけていくことができるか。素晴らしい感動体験を与えていくことができるか。そして、生きる力となる思い出をこのランドセルの中に詰めていくことができるのだろうか。嬉しい思い出もほろ苦い思い出も、全て、生きる糧となるようしっかりと教育していかなければならないと、身の引き締まる想いにかられます。また、詰め込むだけでなく、このランドセルという器(=可能性)を子どもたち自身が大きく広げていくための支援をしていくことも忘れてはなりません。

「わかみやっ子は、みんな(全職員)で育てていきます。」

本年度も本校の教育活動へのご理解と、温かいご支援・ご協力をお願いいたします。